

平成
17年

第3回 甲賀市議会 臨時会

5月19日(木)開催された平成17年第3回甲賀市議会臨時会で、水口スポーツの森野球場スタジアム建設工事など11議案が審議され、原案どおり可決されました。

審議された内容は次のとおりです。

- 条例の制定
 - ・甲賀市税条例の一部を改正する条例の制定
 - ・甲賀市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定
 - ・甲賀市消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例の制定
 - ・甲賀市非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例の一部を改正する条例の制定

■補正予算

- ・平成16年度甲賀市一般会計補正予算(第3号)
- ・平成16年度甲賀市国民健康保険特別会計補正予算(第2号)

- ・平成16年度甲賀市介護保険特別会計補正予算(第3号)

- ・平成16年度甲賀市公共下水道事業特別会計補正予算(第3号)

- ・平成16年度甲賀市農業集落排水事業特別会計補正予算(第2号)

■契約の変更

①

【工事名】

水口スポーツの森野球場スタジアム建設工事

【当初契約額】

266,700,000円

【変更契約額】

270,032,700円

【契約相手方】

(株)フジサワ建設

②

【工事名】

水口中学校校舎耐震補強・大規模改造工事(建築主体)

【当初契約額】

541,034,550円

【変更契約額】

577,841,250円

【契約相手方】

(株)奥田工務店

市史の小径

第1回

市史の先輩たち

その①

本年度から本格的なスタートを切った市史編さんについて、調査の成果なども織り込みながら紹介していきます。今回は市史の先輩にあたる「地誌」について見てみましょう。

ある地域の自然・社会・文化などを記し、地域の特色を示したものを地誌といい、最も古いのは古代の「風土記」とされます。町史や市史も地誌の一つですが、近江では、古くから多くの地誌類が編まれてきました。

とくに各地に藩が成立した江戸時代は、支配の都合からも多くの地誌類がつけられました。膳所藩の儒学者が編んだ「近江輿地志略」はその代表で、近江全域をカバーし、甲賀郡にも多くの頁がさかれています。

弥次喜多道中に示される庶民の旅行熱を背景に登場した「名所図会」も地誌のひとつで、道中の名所旧跡がガイドブックさながらに絵入りで紹介され、地誌的情報への庶民の強い関心がうかがえます。とくに東海道が通る水口や土山は、町並や道中の風景が巧みに描かれています。

この他やや異色なものとしては、幕府の学者が全国の藩に土地の風俗を問い合わせたことへの答えの一つである「近江国多羅尾村風俗問状答」があります。アンケート調査のはしりといえ、正月のナリ花や太鼓踊など、今日も伝承される行事が記され民俗学的にも貴重な記録です。

明治に入ると滋賀県が「甲賀郡村誌」など官製地誌を編みますが内容は貧弱でした。むしろ学校の教材として郷土の歴史や先人の業績をまとめた「郷土誌」や「人物誌」の編さんが盛んになり、これがやがて郷土研究や郡志編さんへと発展します。自分たちの住んでいる集落を越えた郷土意識や郷土愛の醸

成には学校が大きな役割を果たしましたが、当時の人々に意識された最も広い郷土は「郡」でした。明治から大正にかけての一時は、古代を除いて長く地理的な区分であった「郡」が行政区分として復活。大正期に入るとその郡役所によって郡志(史)編さんが盛んになります。全十巻の『近江蒲生郡志』を筆頭に、郡単位の修史事業がこれほど成功したのは全国的にも珍しいことです。

そんななか大正15年に甲賀郡教育会から出された『甲賀郡志』は、上下2冊ですが体系的に叙述され、甲賀武士や天保一揆など特色ある史実が丹念に紹介されており、市史編さんでもまずよりどころとなるものです。

ところでこの郡志、実は当時の原稿がそっくり残っているのです。毛筆で書かれた和紙の原稿はゆうに五千枚を越えますが、活字にならなかった部分も多く、神社編の原稿には「神像」の数や形、寸法なども詳しく記されていました。結果的には掲載は見送られましたが、文化財保護の観点から見ても、郡内全ての神社を調査した労力とあわせて、注目されるものです。



▲残されていた甲賀郡志の原稿

【問い合わせ】 総務課市史編さん係
☎ 86-8075 FAX 86-8380